



きこえとことば通信

立川市立第七小学校 校長 島村 雄次郎 立川市立第八小学校 校長 藏重 佳治
 ことばの教室 TEL/FAX 042-527-3627(直通) きこえとことばの教室 TEL/FAX 042-536-9664(直通)

寒い毎日ですが、子どもたちはとても元気な様子で通級しています。3学期もよろしくお願ひします。
 今号は、11月に行った、七小・八小の合同保護者講演会について報告いたします。講師の先生には、感覚統合とは何か、実際の療育での活動、家庭でできること等をお話いただきました。一部ですが内容を紹介します。

合同保護者講演会「子どもの育ちと感覚統合～日常のヒント～」

講師：三浦 香織 先生(文京学院大学非常勤講師・元首都大学准教授 作業療法士)

感覚統合とは・・・感覚統合とは 環境の中で自分の身体を適応させるための感覚情報処理過程。
 特に、「前庭覚」、「固有受容覚」、「触覚」はお腹の中にある頃から育ち始める重要な感覚。視覚、聴覚とともに運動だけでなく情緒や社会性の育ちにつながっていく。

触覚とは？

外界から自分の身を守ったり
外の世界を識別したりする機能

☆触覚に関係している日常の様子

- ・ぬいぐるみなどの柔らかいものが大好き
- ・人混みが大嫌い
- ・後ろから急に触られるのが苦手 など

☆触覚が敏感すぎると・・・

手を使いたがらず不器用になったり、いつも緊張して落ち着かなかったりすること。



前庭覚とは？

重力、速さ、回転の刺激を感じ、バランスを取って円滑に見る(手振れ補正)ための機能

☆前庭覚に関係している日常の様子

- ・ジェットコースターなどスピードのあるものが好き
- ・くるくる回るとすぐ目が回る
- ・動き回るよりじっとして過ごす方が好き など

☆前庭覚が鈍感だと・・・

動かすにはいられなくて落ち着きがなかったり、目の使い方が上手いかず不器用になったりすること。

固有受容覚とは？

体の位置や力加減、姿勢保持に関する機能

☆固有受容覚に関係している日常の様子

- ・力仕事、重い荷物をもつのが大好き
- ・固い食べ物が大好き
- ・しょっちゅう物にぶつかる
- ・姿勢を保てない
- ・なでようとして叩いてしまう など

☆固有受容覚が鈍感だと・・・

姿勢・運動が上手くできずに不器用になったり、自分の体の状態が分からなくて、落ち着かなくなったりすること。



脳梁は太くなる！？

※脳梁＝左右の脳を繋ぐ働きをする部分
左右交互の動き(両側統合の動き)をすることで、脳梁が太くなり、脳の左右の役割の分化が進むといわれている。

例えば・・・

- ・左右の足を交互に動かす
(三輪車をこぐなど)
- ・目を左右に動かす
- ・ラジオ体操
- ・膝を交互に叩く



生活の中で感覚統合を取り入れてみよう！

- 毛布やマットで体を包み込む(触覚)
- 袋の中身の当てっこ(触覚)
- ブランコやすべりだい(前庭覚)
- バランスボールやバランスクッション(前庭覚)
- 重～い布団をかけて寝る (固有覚)
- 雑巾を使って両手で床を拭く(固有覚) など

★ポイント★

求めている感覚、苦手な感覚を理解してあげることが大切！
無理矢理やらない！
楽しく！気持ちよく！

保護者の方や教員からの質問にも答えていただきました

Q. 感覚統合と聞いて、五感(視覚・聴覚・嗅覚など)のことと思っただが、関係するの？

A. 視覚と前庭覚はセットで考える。「見ることに前庭覚が関わって、見るのが苦手になっている子どももいる。聴覚は前庭覚と近いところにある。関係し合っていて、聴覚障害のある子どもの中には、前庭覚が弱い子どももいる。

Q. 子どもが母の匂いを嗅ぎに来て気持ちを落ち着かせている気がする。感覚統合に関係している？

A. 嗅覚は脳の中にあり、記憶に残りやすい。匂いの影響は大きい。体を動かしたい時に運動できない場合、嗅覚を用いてみるのもいい。感覚統合の場では、好きな香りを使ってみることもある。

Q. 平日に公園に連れていけない場合に家の中でできること、お手伝いなどはあるか？

A. 子どもが何か刺激を求めてやっていることがあれば、それを合法化させてあげると良い。「布団を縛ってそれを蹴るのはいい」「ボールコーナーを作る」「ラグビーのタックルのような押すことはいい」のように。大きい子は筋トレにハマる場合もある。家の状況に応じて場所を作ってあげると良いが、そういう機会が作れたらラッキーくらいの気持ちで良い。

Q. タオルケットなどに子どもを乗せてゆらゆらするのはどうか？

A. 大きくなったら役割を交代して、親を乗せて引っ張ってもらうこともいい。

保護者の方からの感想(一部)

- 感覚統合について初めて知りました。日常生活の中に両側統合の動きを取り入れていきたいと思います。
- その人にちょうど良い環境はそれぞれ違って、アプローチの仕方もそれぞれ違うことが世の中にもっと認知されれば感覚が敏感だったり鈍感だったりする子が生きやすくなるのかなと思いました。
- 子供だけでなく自分はどうなのか？「やりたい！」「できた！」をたくさん感じる体験を親子でやり、脳梁を太くしていきたいと思います。
- 「嫌だという事を無理にやらせても脳は活性化しない。」という言葉が印象的でした。
- 「脳は使うほど発達する。」という教えを希望にこれからも子供と一緒に楽しみながら取り組んでいこうと思います。
- 先生のお話は分かりやすく、帰ってすぐにできることも多々あり、とても勉強になりました。またお話が聞きたいです。

